

令和6年度 FCP活動報告会



令和6年度FCP若手フォーラム報告 (活動を通じての学び)

～若手フォーラム参加者からの発表～

総合ファシリテーター
株式会社 フードサニテーション78
山下安信

令和6年度 FCP活動報告会



FCP若手フォーラム報告（活動を通じての学び）

- ・令和6年度若手フォーラムについて（5分）
- ・若手フォーラム参加者からの発表（85分）
- ・ファシリテーター総括（10分）

令和6年度若手フォーラムについて

FCP若手フォーラム

- 1.産官学協働のプラットフォームの中で、若手スタッフのみなさんと FCP経験者が自由に交流する場を提供する



- 2.交流を通して食品関係の事業者・組織の次代を担う人材を育成する
3. 食の安全・消費者の信頼向上のFCPの取組みを次代に受け継ぐ

令和6年度若手フォーラムについて

【参加対象者】

若手・中堅社員（職員） 20～30代を中心

業種・職種に限定なし

例：品質管理、検査、製造、物流、製品開発、研究、お客さまサービス、営業、人事、広報、店舗スタッフ、マーケティング、行政、生産（農業など） 等幅広く対象



参加者は年間を通して同一人物が、原則、毎回出席

【チーム編成】

11名/1チーム、全 7チーム

若手フォーラムファシリテーター（FCP経験者）が、各チームに1～2名入り、事務局と連携し参加のみなさんとワークショップがより充実するようにサポートする



令和6年度若手フォーラムについて

ふりかえり

		テーマ	事前課題・ワークショップ
1	5/29	食への信頼を創る チーム内の自由に意見交換 チームごとの交流	自己紹介（全員との名刺交換） ①FCPとは ②協働の着眼点（ベーシック16） ③若手フォーラムで学びたいこと（個人目標の設定）
2	6/27	食品安全と品質保証に対する考え方 食品製造会社の品質保証 食品安全を向上させた企業事例	食品業界の食品安全や品質保証に関わる仕組みについて考える ①仕事や生活に関わりのある食品安全や品質保証の仕組みをあげる ②仕組みとの長所と課題を考える ③フードチェーンの中の円滑なコミュニケーションの取り組みと将来やりたいこと
3	7/31	消費者への伝え方 消費者を理解する ソーシャルマーケティング	「食」への信頼を創るための行動と消費者からの理解について考える ①商品やサービスで一般消費者が思い込み（固定観念、先入観）で行動する事例 ②その原因や背景にある理由を予測する ③思い込みを修正できるコミュニケーションを考える
4	9/26	信頼を高めるコミュニケーション リスク認知バイアス 消費者コミュニケーション	最消費者の心理と行動を予測し、消費者から信頼されるコミュニケーションを構築する ①商品やサービスに一般消費者が思い込み（固定観念、先入観）で行動する事例 ②その原因や背景にある理由を予測する ③思い込みを修正できるコミュニケーションを考える

若手フォーラム 最終成果物

◇若手フォーラム（最終成果物）

●チーム成果物

フォーラム内で学んだことを踏まえチームでテーマを決め、活動報告会で発表する

●個人成果物

先に設定した個人目標に対する振り返り（活動報告会 事後課題）
フォーラム全体を振り返り、目標に対する評価や仕事に活用することを目標に、今後のビジョン等をまとめる

若手フォーラム参加者からの発表

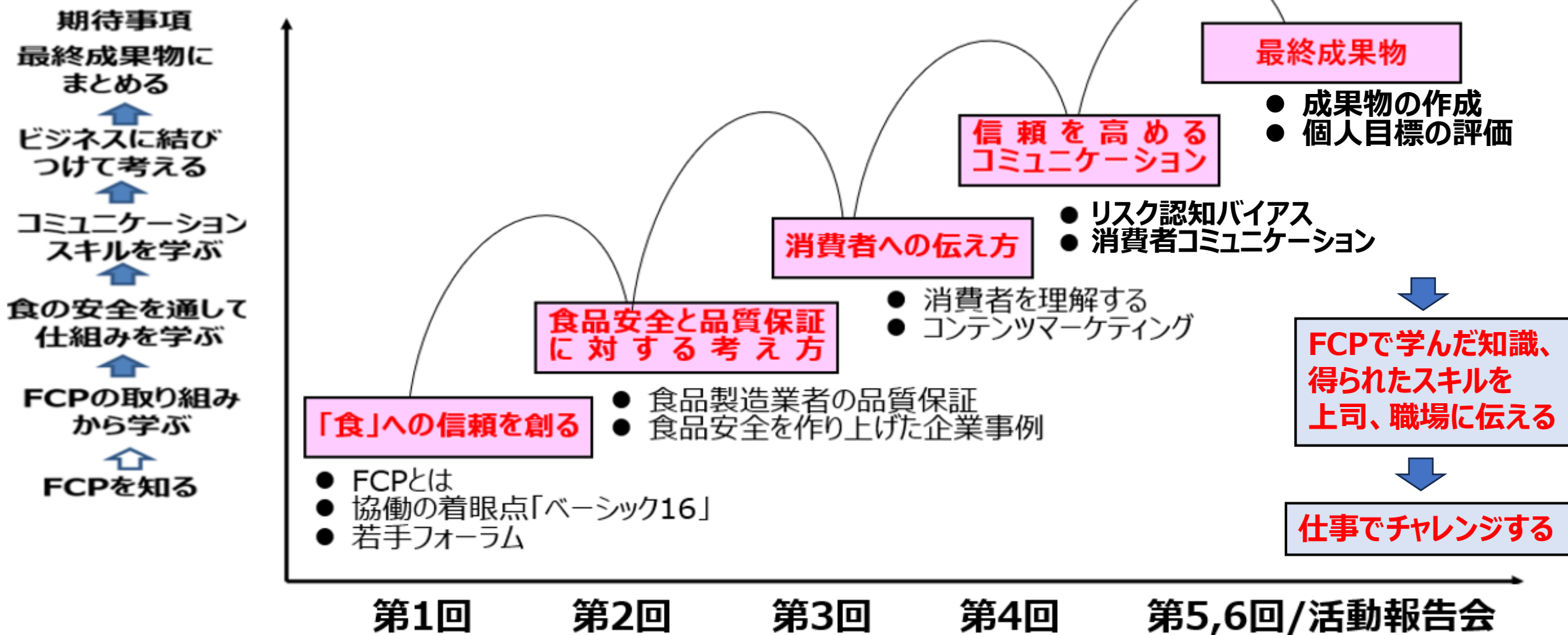
チーム発表順序

1. C	発表時間	10分	
2. F	予鈴 (1)		7分経過時
3. E	予鈴 (2)		9分
4. B	予鈴 (終了)		10分
5. G			
6. A			
7. D			

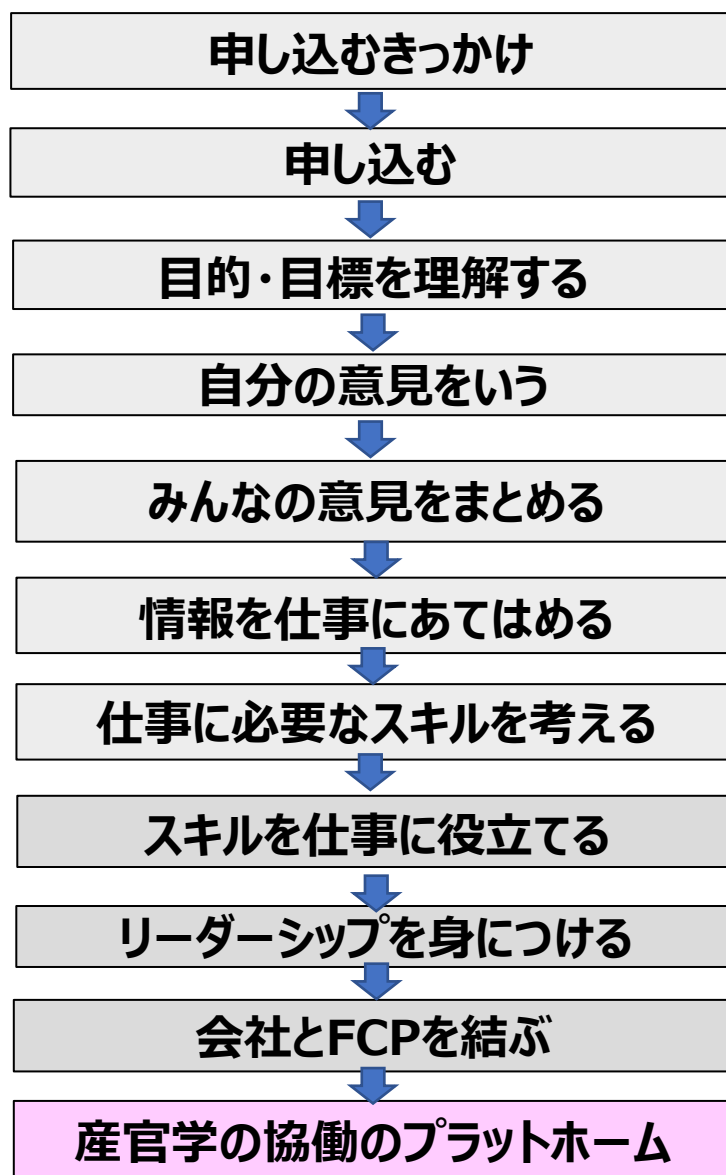


ファシリテーター総括

スキルアップロードマップ



ファシリテーター総括



若手フォーラム ワークショップ

- 事前課題をもとにチームでディスカッション
- リーダー（チームの中で交替）を中心に進行
- チームファシリテーター（FCP経験者：食品業界のエキスパート）がサポート
- チームでテーマ発表 「食の信頼向上」「食品安全と品質」「信頼を高めるコミュニケーション」「社会環境の変化」「チームメンバーで取り組みたいテーマ」

個人目標 スキルアップ

- 人材育成プラン
- 技術やノウハウの伝承（非競争分野）

より専門的で切実な課題
知見学習会
専門会議

令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物について

個人成果物

- 皆様には、個人の成果物として、第1回フォーラムの後に設定いただいたチームおよび個人目標に対して、振り返りを作成します
- 作成した成果物はFCP事務局にご提出ください。公表はしません。
今後の若手フォーラムの充実に役立たせていただきます

◇記入内容

5月に立てた目標に対する評価

（5段階評価、頑張った点・苦労した点）

- ・若手フォーラムの経験や学んだことを自身の業務にどう活かすか
- ・今後の課題、目標は何か、（課題、目標、キャリア等）



職場での発表や成果報告をする際にもお使いください！

令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物について

個人成果物

◇記入内容

②振り返り（活動報告会事後課題）

- ・①で立てた目標に対する評価
（５段階評価、頑張った点・苦勞した点）
- ・若手フォーラムの経験や学んだことを自身の業務にどう活かすか
- ・今後の課題、目標は何か、（課題、目標、キャリア等）



若手フォーラムに参加するにあたり、明確な目標を持って参加し、フォーラム後にはしっかりと振り返りを行うことで自身の成長につながります(*'▽')

自社で業務報告や成果報告をする際にもお使いください！

令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物①



チーム名		氏名	
------	--	----	--

◆若手フォーラム・チームの年間目標について

①目標

②振り返り

◆若手フォーラムの個人の年間目標について

①目標

②振り返り

若手フォーラムのチームおよび個人の目標と取り組藻、
学びについて自己評価を行い、得られた経験と課題
を確認しましょう。

◆若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか

①目標

②振り返り

◆若手フォーラムの学びをどのように職場にフィードバックしていきますか

①目標

②振り返り

令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物②



◇ 1年間を振り返り、会得できたと思うスキル、当初の目標に対しての成果等を確認しましょう

スキル	自己評価	頑張った点/苦労した点
FCP活動や取組についてを理解する	1 2 3 4 5 ●	
グループワークに参加して意見を述べる	1 2 3 4 5 ●	
グループワークをリードして取り仕切る	1 2 3 4 5 ●	自己評価は1～5の5段階評価で実施ください ※ 5:身についた 4:やや身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった
自社の仕事を説明する	1 2 3 4 5 ●	
さまざまな意見を取りまとめる	1 2 3 4 5 ●	
自社に学んだことを伝える	1 2 3 4 5 ●	

◆ 若手フォーラムでの経験を踏まえこれからチャレンジしたいと思うこと（課題、今後の目標・キャリアプラン等）

個人成果物のポイントです。
若手フォーラムの経験や学んだことを仕事にどう活かすか、
今後の課題、目標、キャリアなどを整理してまとめましょう

令和6年度 FCP若手フォーラム 個人成果物①

チーム名	Z班	氏名	FCP株式会社 さくら まる子
------	----	----	-----------------

◆若手フォーラム・チームの年間目標について

①目標	②振り返り
行政/業界内のコネクションを作る。	行政および自社と同じ業界の方々と繋がりを持てたことは大きかった。

◆若手フォーラムの個人の年間目標について

①目標	②振り返り
リーダーシップ力、ファシリテート力を高める。	班の中でも多く発言し、班内でのまとめ役の地位を果たせた。1年の交流を深めることで班をまとめることができた。

◆若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか

①目標	②振り返り
外部情報の入手と蓄積。普段の業務での利用。	普段は情報を取りにいかないと入手できないような、専門家による最新の食の安全・信頼に関する情報を学ぶことができた。その情報を対外コミュニケーションに活用できた。

◆若手フォーラムの学びをどのように職場にフィードバックしていきますか

①目標	②振り返り
FCP若手フォーラムと同時期に、部内ミーティングをセットし、自分が行ったこと、学んだことを部員全員に伝える。	自己PRに加え、身に着けたリーダーシップは、管理職として、業務や部下の育成に役立てたい。

スキル	自己評価	頑張った点/苦労した点
FCP活動や取組についてを理解する	1 2 3 4 5 	FCPのHPは頻繁に閲覧し、自身の活動の指針した。／会社、部内のメンバーにFCPの理解を促進させること。
グループワークに参加して意見を述べる	1 2 3 4 5 	発言する機会は班員の中でもっとも多かった。／特に無し。
グループワークをリードして取り仕切る	1 2 3 4 5 	各ワークショップのリーダー以外の班のまとめ役の地位を確立させ、班を牽引した。最終成果物の作成もリードし、形としてまとめ上げた。／特に無し。
自社の仕事を説明する	1 2 3 4 5 	自己紹介シートを作成しFCPに持参した。／ワーク内で自分事や自身の仕事の説明する機会が少なく、限られた時間での説明。
さまざまな意見を取りまとめる	1 2 3 4 5 	最終成果物には、全ての班員の意見を聞き、それを取り入れ作り上げた。／Web環境による班内でのブレインストーミング。
自社に学んだことを伝える	1 2 3 4 5 	FCPで学んだことは全て自分なりにまとめ社内プレゼンを通じて伝えた。／プレゼン資料を作成する際の時間づくり。通常業務を優先させてしまう部分はあった。

◆若手フォーラムでの経験を踏まえこれからチャレンジしたいと思うこと（課題、今後の目標・キャリアプラン等）

- 3年後に課長に昇進する。そのためにFCPで自分が何を得たいか明確な動機をもって参加する。
- 時間とリソースを使ってFCPに参加するのであれば、正しく社内でも評価されたいと思う。そのためには、参加している自身が、いかに会社へ説明することができるか、FCPを通して得られたもの（スキル、経験、知識など）をアピールできるかがポイントだと思う。

活動を通じての学び

ふりかえり：自己チェック

チェック項目	チェック
FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを理解できましたか	✓
若手フォーラムの魅力(規模)を体感し、新しいネットワークをつくれましたか	✓
参加メンバーとの意見交換を通して、考え方や視野が広がりましたか	✓
ワークショップと個人目標から、スキルアップにチャレンジできましたか	✓
食品ビジネスの中で、チームのリーダーの役割にチャレンジできますか	✓
会社・組織の中で、主体的にFCPとのつながりを強めていくことができますか	✓



ファシリテーター総括



若手フォーラム卒業生のみなさんに「贈ることば」

1. 新しい仲間との交流の機会が得られた

➡ FCPを通して、より幅広い交流を深める

2. ワークショップを通してコミュニケーションスキルを身につけた

➡ 職場の中で仕事に役立てて、スキルを磨いていく

3. 非競争分野で組織と業界の壁を越えた、食に関わる共通課題が見えた

➡ 共通課題に取り組むことをキャリアアップ※につなげる

※キャリアアップとは、より高い能力を身につけて、経歴を高めること

事業者のみなさんへ

FCPの機能

多様なコミュニケーションを通して、食の安全に対する消費者の信頼を高め、食品事業者を支援する

FCPが直接関わるステイクホルダーとの接点

<食品事業者>

- 消費行動の変化
- 世代交代の中の技術の伝承
- ワークライフバランスとキャリアプラン

<教育・有識者>

- 国際社会との距離
- 教育制度の再編
- 生涯学習とリスキングの定着



<消費者>

- 生活様式と食生活の多様化
- 高齢化による健康への 不安の高まり
- 情報社会の中の孤立化

<行政>

- 社会の変化に対する 法律などのルール変更
- 中央と地方の対応
- 食品行政に関わる説明責任

事業者のみなさんへ

FCPの目標

農林水産省が提供する産官学協働のプラットフォーム

- フードチェーン関係者の食品や社会の共通課題に対する意欲的で開かれた交流の取り組みを通して、フードチェーンを支援し消費者の食への信頼を高める

到達点

- FCPツールの開発・提供（ベーシック16，商談会シートなど）
- 食品安全マネジメントツール（共通工場監査項目など）
- 中小事業者の商談支援（地域展示会商談会シートなど）
- 人材育成支援（若手フォーラムなど）
- 共通課題の学習・交流（新たな知見勉強会など）
- 社会の変化に応じたより専門的な取り組み（食品安全文化の可視化、FCPツールの活用など）

令和6年度 FCP活動報告会



令和6年度FCP若手フォーラム報告 (活動を通じての学び)

～若手フォーラム参加者からの発表～

若手フォーラム 参加者のみなさん、1年間 お疲れ様でした。
また、FCPでお会いしましょう。

企業窓口・上司のみなさま、ありがとうございました。
これからもFCPを、是非ご活用ください。